

ヨーロッパ文化学科の新入生へ

フレッシュマン・ガイド 2025

入学おめでとう.....	1
なぜヨーロッパを学ぶのか	1
ヨーロッパ文化学科とはどういう勉強をするところか	2
ヨーロッパ文化学科にはどのような先生がいるか.....	3
有田 英也 教授	3
下田 和宣 准教授.....	3
高名 康文 教授	4
高原 照弘 専任講師	4
滝沢 明子 准教授.....	4
時田 郁子 教授.....	5
中野 智世 教授	5
中山 俊 准教授.....	5
西脇 沙織 専任講師.....	6
明星 聖子 教授	6
村瀬 鋼 教授.....	6
吉川 斉 准教授	6
履修する上で気をつけなければならないことは何か	7
大学四年間の見通し	7
四年で卒業するために	8
三つの関門.....	8
★★★ 初級を落とすな！ ★★★.....	9
ドイツ語・フランス語をマスターせよ	10
卒業論文を今から意識しよう.....	10
ドイツ語・フランス語の勉強法	11
ドイツ語学習へのアドバイス	12
フランス語学習へのアドバイス.....	14

入学おめでとう！

成城大学ヨーロッパ文化学科へようこそ。これから四年間、一緒に楽しく勉強しましょう。

皆さんは、大学生活の入り口に立ち、大きな期待を膨らませ、あふれる学習意欲を燃え立たせていることと思います。しかし同時に、これからの四年間の生活がどのようなものか、どのように勉強をしていけばよいか、とまどい、不安を抱いているかもしれません。

この小冊子は、そうした皆さんの新しい生活のスタートに少しでも役立てばと願い、ささやかなアドバイスを記したものです。ヨーロッパ文化学科の一員としての生活の始まりにあたって、まず目を通してください。それから、これからの生活の中で何かわからないことが出てきた時、また開いて、役に立つアドバイスがないか探してみてください。もちろん、そのつど教員に遠慮なくたずねてくださって結構です。ヨーロッパ文化学科の教員一同、いつでも質問は大歓迎です。

なぜヨーロッパを学ぶのか

あなたが毎日当然のように着ている服は、なぜ「着物」ではなく「洋服」なのでしょう。現在の日本では、成人式や結婚式、大学の卒業式などには和装をすることがあるものの、日常生活で着るものといえばまず「洋服」です。洋装が日本に取り入れられるようになったのはご存知のとおり文明開化の時代であり、当時のヨーロッパの服飾文化が輸入され、長い時間をかけて定着したものが我々の日常着としての「洋服」というわけです。同様に、世界の多くの地域で、「洋服」が着られています。

「グローバリゼーション」ということが言われるようになって久しくなりました。それは多くの場合、アメリカが提案した「標準」を取り入れ、それに合わせることのようにです。世界中が「アメリカ化」しているかのようです。しかし、私たちが毎日「洋服」を着て、それに疑問を抱かないということは、実は「グローバリゼーション」が何百年も前から行われてきたことを物語っています。それは世界の「ヨーロッパ化」であり、現在の世界は、それに抗する力の成長をも含めて、500年前からの「ヨーロッパ化」の産物なのだ、と見ることができます。

そもそも、現在の世界に圧倒的な影響力を誇るアメリカ合衆国もヨーロッパの入植地です。たとえば、ジーンズはアメリカ発祥ですが、その生地のコットンやデニムの語源は、南フランスでコットンを商った都市ニームであり、21世紀の日本でもジーンズは愛用されます。アメリカのことを分かるためにも、私たちのことを分かるためにも、ヨーロッパを知らなければなりません。総じて現代の世界とはよくも悪くもヨーロッパ化された世界なのであり、ヨーロッパを学ぶことは、現代の世界がどのような経緯でこうなったのかを知ることにつながります。ヨーロッパとは、私たちが生きている世界とは何であるのかを分かるための、いわば扇の要とも言えるのです。

ヨーロッパ文化学科とはどういう勉強をするところか

ヨーロッパ文化学科は、ドイツ・フランスの文化を中心にヨーロッパの文化を研究対象としています。

外国の文化を学ぶには言語の習得が不可欠です。ですからヨーロッパ文化学科では、まず、ドイツ語・フランス語を重点的に学びます。本学科の学生の外国語の必修単位は、次のとおりです。独語タイプと仏語タイプがあります。どちらか一方を選び、必ずこれだけは学ばねばなりません。

(独語タイプ)

学部共通外国語	独語	12 単位
	独語以外から	4 単位
学科科目	独文法実習 a および b	2 単位
	独語コミュニケーション I～IVから	4 単位

(仏語タイプ)

学部共通外国語	仏語	12 単位
	仏語以外から	4 単位
学科科目	仏文法実習 a および b	2 単位
	仏語コミュニケーション I～IVから	4 単位

*学部共通外国語には、独語・仏語の他に、英語・中国語・イタリア語があります。

上記は必修単位です。しかしこれは、最低限これだけは外国語の単位を取らなければ卒業できない、というだけのことです。もっとたくさん外国語を学ぶことは可能です。それどころか、ヨーロッパ文化学科の学生はどんどん積極的に外国語、特にドイツ語・フランス語を学びましょう！語学力は学力全体の決め手となります。ドイツ語・フランス語の資格試験の受験を志す人のためにはディプロム・コースがあります。また、西洋古典を学びたい人のためにはギリシア語・ラテン語も用意されています。

学科科目では、文学、思想、歴史、芸術など、「文化」という言葉が意味する多様な事象を、ドイツ・フランスの事柄をメインにしながらヨーロッパという広い枠のなかで学びます。個別の内容としては、ヨーロッパ文化の源流である古代ギリシア・ローマの古典文化や、中世から現代にいたるヨーロッパ史はもちろんのこと、言語学、文学理論、哲学など、理論的な基礎に関わるものから、比較文化、広域芸術論、現代事情など、具体的また現代的な知識と感覚とを養うものまで、様々な主題・領域を扱っています。学習者は、まず 1 年次必修の「ヨーロッパの文化」(オムニバス形式の総合講座)をはじめとした入門的な科目を通じ

て、全体と個々の内容とについておおまかなイメージを得た上で、自分が関心を持った分野、自分が深めたい主題に重点を置いて学んでいくことができます。具体的には、3～4年次には各種演習に参加して、関心のある分野を深く探究するほか、ゼミナールに所属して、担当教員の指導のもと、各自が選んだテーマで卒業論文を作成します。

ヨーロッパ文化についての広い視野を獲得しながら、自分自身の最も深い関心とスパークするテーマを見つけ出し、自分自身のユニークな仕方、そのテーマを納得のいくまで追求していく。これがヨーロッパ文化学科のやり方です。

ヨーロッパ文化学科にはどのような先生がいるか

(五十音順)

^{ありた ひでや}
有田 英也 教授 (※2025年度は「研修」のため授業をもちません)

担当科目：フランス語学文学演習、WRD、仏文法実習

研究テーマ：20・21世紀フランス文学、地域文化論（特に、フランス近代以降のユダヤ人問題）。フランスにおける民族問題、宗教対立、歴史認識を通して、わたしたちの生きる社会の弱点について考えてきた。最近、フランス現代文学の古典を、大衆文化から読み直している。

研究内容：現在、先進国と呼ばれる国々の多くでは、19世紀半ばから20世紀初頭にかけて義務教育、労働政党、社会保障のしくみができた。また、たんに征服し投資するだけでない新しいタイプの植民地を築いた（いわゆる帝国主義）。世界の「いま」を理解するには、20世紀の中身が決まった60年ほどの時代を洗い直す必要がある。そこで近代フランスという遠い対象を、細かい目盛りで観察している。詳しくは図書館に入っている著書2冊を見てください。研究は文学、芸術、制度、事件、差別意識（をあらわす言葉）、生活文化（たとえば露天書籍商、チーズ生産農家、カフェ、デパートやよろず屋など小売りの業態）に及ぶ。こうした雑学が、文芸講座でジュール・ヴェルヌ『海底二万里』について話したり、総合講座でフランス史にお邪魔したりするのに役立っている。

最終学歴：1990年 東京大学大学院人文科学研究科フランス語フランス文学専攻博士課程退学。

1990年3月 文学博士（パリ第4大学、現ソルボンヌ＝ユニヴェルシテ）

^{しもだ かずのぶ}
下田 和宣 准教授

担当科目：ヨーロッパの思想演習Ⅰ（独）、独語初級、独文法実習

研究テーマ：近現代ドイツ哲学。テーマはとくに宗教、文化、人間、宇宙について。

研究内容：近現代のドイツ哲学を手がかりとして、「文化」のなかで人間が生き思考することの意味について考えています。長い間、ヘーゲル哲学に関わってきましたが、最近は特に 20 世紀にドイツで活躍したハンス・ブルーメンベルクの著作に取り組んでいます。「宗教」も大事なテーマです。

最終学歴：2018 年 3 月 クリスティアン・アルブレヒト大学キール（ドイツ）哲学科博士課程退学。同年同月 文学博士（京都大学）

たかな やすふみ
高名 康文 教授

担当科目：フランス語教育法 A, B、フランス語教育実習、ゼミナール（現代フランス論・中世フランスの言語と文化）、ヨーロッパの文化実習 I、ヨーロッパの文化特殊講義

研究テーマ：中世フランス文学・文献学

研究内容：文学研究においては、『狐物語』と同物語の 13 世紀における模倣作を中心に、同時代文学作品（武勲詩、騎士道物語）のパロディー、都市の成立にあたっての中世人の心性の変化という観点から研究している。また、『狐物語』の写本と校訂本を検討して、同物語の成立事情についての文献学的考察を行っている。また、歴史言語学の知見を利用して、片山幹生、有田豊、ジョルジュ・ヴェスイエールと共に、ウェブにて「歴史で謎解き！ フランス語文法」（三省堂のサイト）を連載している。

最終学歴：1995 年 東京大学大学院人文社会系研究科欧米系文化専攻修士課程修了
1997 年 ポワチエ大学中世文化研究所 DEA（博士論文提出資格に相当）

たかはら あきひろ
高原 照弘 専任講師

担当科目：仏語、仏文学

研究テーマ：17 世紀・18 世紀フランス文化

研究内容：私の研究の出発点はデカルト、ルソーの著作です。彼らの生きた 17 世紀、18 世紀のヨーロッパ文化を多角的に研究しながら、彼らの思想をとらえなおしています。

たきざわ めいこ
滝沢 明子 准教授

担当科目：フランス語（初級）、広域芸術論

研究テーマ：20 世紀フランス批評、現代芸術、写真論

研究内容：作家、批評家として活躍したロラン・バルトを主な対象として、創作行為と作家の「生」の関係、写真論、現代芸術論について研究しています。また 20 世紀のフランス文学における写真の役割というテーマにも関心をもっています。

最終学歴：パリ第 7 大学 テキストとイメージの歴史と記号学研究科 博士課程修了

^{とまた ゆうこ}
時田 郁子 教授

担当科目：独語(初級)、独語独文学演習 ab、独語科教育法 ab、独語科教育法 A・B

研究テーマ：ドイツ語圏の文学・文化・思想

研究内容：文学作品は作家が想像力を駆使して創り上げた小宇宙であると考えて、作品に内在する世界観・人間観を読み解き、それらを手掛かりに、各作品が成立した時代の社会・文化・思想を考察しています。

^{なかの ともよ}
中野 智世 教授

担当科目：ヨーロッパの歴史演習 I (独)、ヨーロッパの歴史講義 I (独)、ヨーロッパの歴史特殊講義 I (独)

研究テーマ：ドイツ近現代史、社会史

研究内容：ある時代・社会の「ど真ん中」にいる人々よりも、どちらかという社会の周縁、影のなかにいる人々の姿を通して、その時代・社会を立体的にとらえたいと思っています。近年では、キリスト教、ことにドイツでは長らくマイノリティであったカトリックを切り口として、19・20 世紀のドイツ社会を読み解こうと試みています。

^{なかやま しゅん}
中山 俊 准教授

担当科目：ヨーロッパの文化、ヨーロッパの歴史講義 II (仏)、ヨーロッパの歴史特殊講義 II (仏)、ヨーロッパの歴史演習 II (仏)

研究テーマ：19 世紀フランスにおける文化財の保存と活用

研究内容：フランスの地方都市における文化財の保存・活用が研究テーマです。主に、19 世紀のトゥールーズにおける歴史的建造物と美術品の管理及び価値づけ、地方(自治体及び地元の歴史・美術・考古学愛好家)と中央政府の関係、愛好家の愛郷心のありようなどについて考察しています。また、ミュージアムに収蔵されている文化財等の返還問題にも関心があります。

最終学歴：トゥールーズ第 2 大学 博士課程(歴史学)修了

^{にしわき} ^{さおり}
西脇 沙織 専任講師

担当科目：言語学入門 a / b、言語学演習 a / b、言語学特殊講義 II（仏）など

研究テーマ：言語学、意味論、語用論

研究内容：「言葉の意味とは何か」、「自然言語の意味を適切に記述するためにはどのような理論がふさわしいのか」という問いについて、考えています。特に、フランス語圏を中心に発展している「論証意味論」(<https://semanticar.hypotheses.org>)というアプローチを参照軸にしています。

最終学歴：2016 年 フランス国立社会科学高等研究院博士課程修了 博士（言語学）

^{みうじょう} ^{きよこ}
明星 聖子 教授（※2025 年度前期は「研修」のため授業をもちません）

担当科目：比較文化演習、ヨーロッパの文学講義 I（独）、ヨーロッパの文学特殊講義 I（独）

研究テーマ：カフカ研究、編集文献学

研究内容：20 世紀のドイツ語圏文学。とくにフランツ・カフカについて、遺稿編集に関する問題を中心に研究を進めています。また、編集文献学という新しい学問分野についても、人文学の様々な分野の研究者たちと共同で研究をおこなっています。

最終学歴：1998 年 東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了 博士（文学）

^{むらせ} ^{こう}
村瀬 鋼 教授

担当科目：ヨーロッパの思想講義 II、ヨーロッパの思想演習 II、哲学入門

研究テーマ：フランス哲学、現象学、自我論、他者論、身体論

研究内容：フランス近現代の諸哲学を手がかりに、「私」あるいは「生」というものの具体的な成り立ち方を、そのもつ様々な可能性とともに考えています。その際、「私」とその「生」とともに、「心」、「身体」、「世界」、「自然」、「環境」、「他者」、「感覚」、「感情」、「時間」、「言語」など、「生きる私」をとりまくもろもろの基本要素も問題になってきます。経験それ自身は別として、具体的には、デカルト、メーヌ・ド・ビラン、メルロ＝ポンティ、レヴィナスと いった哲学者たちの思考を参照項としています。

最終学歴：1995 年 東京大学大学院人文科学研究科哲学専攻博士課程修了（博士（文学））

^{ししかわ} ^{ひとし}
吉川 齊 准教授

担当科目：西洋古典特殊講義 a, b、ギリシャ古典講読、ローマ古典講読

研究テーマ：西洋古典学、古典受容について

研究内容：古代ギリシア・ローマの文芸が、同時代、そして後の時代にどのように受けとめ

られ、位置づけられたか、ということに関心を持っています。「うさぎとかめ」の話などで著名な「イソップ」に関する研究はその一例といえますが、西洋・古代に限らず、近現代の日本なども視野にいれて、広く「古典」の在り方を考えています。

最終学歴：2015年 東京大学大学院人文社会系研究科欧米系文化研究専攻（西洋古典学専門分野）博士課程修了、博士（文学）

※業績その他、詳しい情報は成城大学ウェブサイトの文芸学部ヨーロッパ文化学科の専任教員紹介のページに載っています。興味のある人は各先生の名前をクリックしてみてください。
<http://www.seijo.ac.jp/education/falit/europe-study/faculty/index.html>

履修する上で気をつけなければならないことは何か

大学四年間の見通し

まず、学生生活をよりよく始めるためには、四年間の課程の全体を見通して、頭に入れておくことです。おおまかに言えば、前半の二年間で基礎的な力を養い、後半の二年間で専攻する分野の研究を深める、ということになります。

しかし、気をつけていなければならないのは、4年次の一年間は就職活動で忙しく（早ければ3年次の終わり頃から）、勉学に割ける時間は極度に少なくなるということです。つまり、基礎が固まり、いよいよ本番という3、4年次は、実質3年次の一年間しか、落ち着いて勉学に打ち込める期間はないのです。このことを今から心に刻んで、時間を無駄にしないよう気をつけておくと良いでしょう。

アドバイスとしては、1、2年次の間にしっかり基礎的な勉強に集中しておくと同時に、早くから、3、4年次で特に自分が打ち込みたい勉強のテーマを探し始めておくことが重要です。具体的には二点あります。第一は、語学力の鍛練です。ヨーロッパ文化学科での勉強で最も重要な基礎とは語学力なのです（このことは後でもう一度詳しく説明します ☞p.9 「ドイツ語・フランス語をマスターせよ」、p.11 「ドイツ語・フランス語の勉強法」）。第二は読書です。専門的な研究テーマを見つけるためには、何よりもヨーロッパ文化学科がカバーしている諸分野とはどういうものか知っていなければなりません。そのためには本学科の諸先生が専門的に研究されている内容がどんなものか目を配っておくことが大事です。言い換えれば、1、2年次の間に、「ヨロ文1年生のための推薦図書 ブックガイド 2025」で紹介されてある本を中心に、一冊でも多く読んでおくことをお勧めします（☞p.10 「卒業論文を今から意識しよう」）。

四年で卒業するために

さて、大学生活が終了した時点で、つまり、四年後に自分がどうなっていなければならないか。もちろん、就職志望の人は就職が決まっていること、進学希望の人は進学先が決まっていること、これが目標です。では、そのためには、どうでなければならないか。これも当たり前のことですが、卒業が決まっていなければなりません。卒業に必要な単位を取得していること、これが四年後に最低限果たさなければならないことです。しかし、四年で卒業要件単位を取得し無事卒業するというこの目標を達成するためには、ヨーロッパ文化学科の学生に課されるいくつかの関門をクリアする必要があります。

その関門とは何か。それは次の三つの条件を満たさなければならないということです（『履修の手引』の該当部分も見てください）。

- 1) 2年次から3年次への進級基準
- 2) 3年次から始まる演習科目の履修基準
- 3) 4年次でのゼミナール履修条件

以下、それぞれ見ていきましょう。

三つの関門

（以下の内容に関しては『履修の手引』の該当部分もよく読んでください）

◆2年次から3年次への進級基準について 2年次終了までに次の単位を修得していなければ、3年次に進級することができません。次年度も2年生のままで、しかも、3年次以上に配当されたどの授業科目も履修することができません。

- ・WRD I（1年次配当） 2 単位
- ・WRD II（1年次配当） 2 単位
- ・ヨーロッパの文化（1年次配当） 4 単位
- ・ヨーロッパ文化実習 I（1年次配当） 1 単位

計 9 単位

◆演習科目履修基準について

演習科目とは、3年次以上に配当される学科科目で、専門的な研究分野について、その学問がどのような知識と方法論に基づいて探究されるのかを実地の訓練を通して学ぶための授業です。3年次に演習科目を履修するためには、2年次終了までに次の単位を修得していることが必要です。

- ・学部共通外国語（独語または仏語） 8 単位
- ・1、2年次配当の「講義科目」 4 単位

計

12 単位

◆ 4 年次でのゼミナール履修条件について

3 年次、4 年次と二年にわたって履修するゼミナールは、ヨーロッパ文化学科がカバーする諸分野のそれぞれについて、履修者の積極的な参加を通して専門的に掘り下げていく場であり、また、各自がテーマを立てて研究し、卒業論文にまとめていくための手助けをするための授業です。

気をつけなければならないのは、文芸学部では卒業論文が必修であることです。つまり、卒論の審査に合格しなければ卒業できません。ということは、4 年次のゼミ履修条件を 3 年次終了時にクリアすることが、四年で卒業するための必須の条件でもあるということです。ではその条件とは…

- | | |
|-----------------------------|-------|
| ・学部共通外国語（独語または仏語） | 10 単位 |
| ・（独語または仏語）コミュニケーション I～IV から | 2 単位 |
| ・独または仏文法実習 a および b | 2 単位 |
| ・ヨーロッパ文化実習 II a および b | 2 単位 |
| ・ゼミナール（3） | 4 単位 |

計

20 単位

一見簡単ようですが、4 年次ゼミを履修するために必要な独語または仏語科目は 14 単位にのぼります。

★★★ 初級を落とすな！ ★★★

以上見てきて気づかれるでしょうが、ヨーロッパ文化学科では独語科目または仏語科目の重要性が大きいということです。そして、学部共通外国語（独語または仏語）はグレード制というシステムを取っているのです。中級を取っていなければ上級は履修できない、初級を取っていなければ中級は履修できない…つまり、1 年次に初級を落とすと、学部共通外国語（独語または仏語）に関しては、その後ずっと、一年遅れのスケジュールになってしまうのです。そこで、初級を落とさないことが、四年で卒業するためにいかに重要な条件であるかがおわかりになるでしょう。もちろん、初級を落とした場合でも、四年で卒業する可能性が全くなくなるわけではありません。しかし、その場合は、普通の人が 3 年次で履修する演習科目も 4 年次で初めて開始することになり、最後の一年間に、演習 8 科目 16 単位、卒業論文、就職活動の全てが詰め込まれるという三重苦になります。そうならないためにはやはり、1 年次での独語（初級）または仏語（初級）を決して落とさないようにすることが大事です。

ドイツ語・フランス語をマスターせよ

ヨーロッパ文化学科ではドイツ語かフランス語のどちらか一方を選択し、その言語の授業を多く履修するよう課されています。たいていの皆さんは、英語しか習ったことがなく、ドイツ語やフランス語はとっつきにくい、むずかしい、なぜこんなにたくさん語学の授業が課されるのだろう、私は語学学校に来たのではない、「文化」を勉強したいんだ、と弱音を吐くかもしれません。しかし、よく考えてください。あなたが人間として生きていられるのは、言葉が話すことができるからではありませんか。言語能力(手話や点字も含みます)がなければ、社会で生きていくことは大変困難になってしまいます。「文化」と呼ばれる人間の精神のあり方は言語なしではなりたちません。文化は言葉で出来ているのです。文化を学ぶとき、基本中の基本として押さえておかなければならないのは言語なのです。原文で読まなくとも翻訳で読めばよいではないと言われるかもしれませんが、しかし、言語は数式ではないので、正確な置き換えはありえません。言葉は別の言語で言い換えようとするとき、どうしても翻訳不可能な部分が出てきますし、翻訳には翻訳者の解釈が混じってしまうことは避けられません。すると、翻訳だけを通した異文化の理解は、一種の、他人の解釈の受け売りになってしまうのです。そこに、原文で読む必要性がありますし、大学教育とは、異文化に、その文化がそれによって成り立っている言語そのものを通してアプローチするという、本質的なやり方を訓練してくれる貴重な機会なのです。こういう機会は今しかありません。それに皆さんの年頃が、言語を習得するのに最も適した年代なのです。今を逃したら、年とともに記憶力は衰えていきます。チャンスを活かしてください。

一つの言語は一つの世界の見方にほかなりません。新しく未知の言語を習得するという事は、もう一つの宇宙を手に入れることです。人生の可能性を二倍にすることです。宝はあなたのなかに眠っています。それは開発されるのを待っているあなたの能力です。

そして、1、2年次で、語学力を伸ばしておくことは、もちろん3、4年次での勉強に必要な基礎力を養うことであり、ひいては、充実した卒業論文の作成に結実していくことでしょう。ヨーロッパ文化学科の場合、大学生活の成功の鍵は言語習得にかかっています。

卒業論文を今から意識しよう

四年間の大学生活が終わった時、本当によく勉強したと言えるかどうかの尺度は何でしょうか。さまざまな判断の基準があつてよいと思われそうですが、ここでは、一つの目安を提案しましょう。それは卒業論文ということです。四年間の勉学の集大成として、良い卒業論文を書くこと、大学での研究の成果を一つの論文という形に結実させていくことを目指してはいかがでしょうか。

そう考えると、目標から逆算して四年間の過ごし方を考えてみると良いでしょう。3、4

年次での専門的な勉強の基礎になるのは何といたっても語学力です。1、2年次の間にどれだけ語学力を高めておくかが勝負です。授業に一生懸命取り組むのももちろんですが、テープ教材の活用はもちろん、語学の専門学校に通ってみる、夏休みや春休みを利用して短期の語学留学に行ってみる、語学力の検定試験に挑戦する…。大学生のうちにさまざまな機会を活かしてみましょう。

次に、卒論で大事なものは、そしてむしろかしいのは、どのようなテーマを選ぶかです。興味深く、オリジナルで、本質的なテーマとは何か。ある意味では、論文の命は、どのようなテーマにするかで決まってしまう。4年生になって初めて考え始めるようでは遅いのです。卒論は四年間の努力を結実させるためのものなのですから、今から考え始めても早すぎることはないくらいです。そして、1年のときから、卒論でどんなことを書こうかと考えながら、履修科目を選び、組み合わせていくのも、大学生活を良くオーガナイズする一つの方法ではないでしょうか。

さて、皆さんはまだ、どのような方面が本当に自分の興味のあることかわからなかったり、また、関心のわく方向があっても、それを勉強するにはどんな本を読んだらよいかわからないということも多いでしょう。このガイドと一緒に配布する、ヨーロッパ文化学科がカバーする諸分野についての読書案内「ヨロ文1年生のための推薦図書ブックガイド2025」を参考にしてください。そして、1、2年次の間になるべく多く本を読んでおくこと、これが大学生活成功の秘訣です。また、教員紹介(p.3~6)と「推薦図書」を参考に、ヨーロッパ文化学科の先生方に積極的に質問をぶつけていくとよいでしょう。どの先生も質問大歓迎ですよ。

ドイツ語・フランス語の勉強法

成城大学文芸学部ヨーロッパ文化学科は、みなさんの学習意欲に応え、人間的成長の手助けができるよう、さまざまなメニューを用意しています。

ただし、これらのメニューを自由に選ぶためには、外国語、特にドイツ語またはフランス語の**基礎的な能力**が必要です。ほとんどのみなさんは、これらの外国語を大学に入学して初めて学ぶことになるでしょう。わずかな期間で、ドイツやフランスの新聞や雑誌、あるいは文学・歴史・思想の専門書が読めるようになる、そんな夢のような将来が、みなさんを待っているのです。

もちろん、この「夢」を実現するためには、それなりの努力が必要です。とくに、最初が大切です。現実的なことを言いますと、ヨーロッパ文化学科を無事に4年間で卒業するためには、**独語(初級)または仏語(初級)(6単位)を1年目に修得**できるかどうか、おおいに鍵を握っています。不幸にして1年目に単位を落としてしまった場合、それが「留年」を意味するわけではなく、2年目に再度挑戦すればいいのですが、3年生・4年生で履修することになっている「演習」を、3年生のときに履修することができない、という厳し

い条件が課せられます。ただでさえ、就職活動や卒業論文で忙しい4年生、「演習」を8科目16単位も履修するのは大変で、事実上ほとんど不可能です（それを見事にやってのけた先輩もいますが、決してマネをしないようにしましょう）。

学部共通外国語の独語または仏語を、**1年次に初級6単位、2年次に中級総合4単位、3年次に上級2単位**。さらに、**独（仏）文法実習 a・b と独語（仏語）コミュニケーション I・II とを2年次に**。これがドイツ語・フランス語の「正しい」修得コースです。上級は、2単位と言わず、できるだけたくさん取りましょう。コミュニケーションIII・IVも取りましょう。検定試験に合格してスペシャリストになろうという意欲のある人には、ディプロム・コースといった科目も開講されています。これらの科目の単位は、すべて卒業単位となります（ただし算入の上限はあります）。このようにドイツ語・フランス語を積極的に勉強することによって、3年次から専門書や時事問題をナマの言語で学ぶことも可能になり、英語一辺倒の現代社会において、少し違った物の見方のできる能力を、みなさんは身につけることになるのです。

ドイツ語学習へのアドバイス

さて、話を「初級」に戻しましょう。ドイツ語のことわざに *Aller Anfang ist schwer*.（すべてはじめが難しい。）というのがありますが、まさにその通りで、「初級」はみなさんにとってイニシエーションの儀式です。週に3コマの授業を受けなくてはならない「初級」では、毎回の授業内容をしっかりと理解していかないと、あっという間にわからなくなってしまいます。わからなくなりはじめると、授業がつまらなくなり、先生の顔が「鬼」のように見えてきて、この「鬼」に前期試験でひどい成績をつけられ、後期からはもう授業には来なくなる……こんな不幸な「出会い」が待ち受けています。

こんなことを書くと、ドイツ語の時間が恐ろしくなってしまうかもしれませんが、決してそんなことはありません。みなさんはすでに英語を学習しているのですから、英語とは兄弟であるドイツ語の学習では、中学の時に初めて英語を学んだときのような苦労はしなくてすむでしょう。

例えば、*Mein Vater ist Pianist*. この文を見て、なんとなく意味がわかりますよね。ところが、*Meine Mutter ist Pianistin*. さて、どうでしょうか。英語なら、*my father* と *my mother* なのに、ドイツ語では、*mein Vater* と *meine Mutter*、*my* のところが微妙に違いますね。それに、「ピアニスト」も2種類ありますね。それはなぜでしょうか。まあ、そんなことを学んでいくわけです。ひたすら例外や熟語を暗記した英文法と違って、ドイツ語の初級では、文法の基礎を学びます。英語と似ているからかえって混乱することもあります。英語もドイツ語もインド=ヨーロッパ語族のなかのゲルマン語族に属していますが、ドイツ語の方が古いゲルマン語の名残をとどめていますので、文法が簡約化されてしまった英語と違って、最初は大変です。しかしその反面、ドイツ語の文法体系を理解すると、英語を学んだときには説明のつかなかったことが「実はこんなコトだったのだ」とよくわかるようになることもあ

ります。ドイツ語は、現在ではすっかり変化してしまった英語のルーツを知るうえでも、とても役に立ちます。

ドイツ語のことわざに、*Übung macht den Meister.* というのがあります。直訳すると「練習が名人を作る」、日本語のことわざを当てはめれば「習うより慣れろ」ということになるでしょう。「初級」の授業は週に3回もあって大変と思う人もあるでしょうが、ドイツ語は3回のうち2回は同じ教員が担当しています。ですから、前回の授業を復習したり、練習問題をやったり、ゆとりをもって学ぶことができます。

ところで、教科書は指定されたクラスのものを使いますが、独和辞典は、どんなものがあるのでしょうか。英和辞典ほどではありませんが、独和辞典もいろいろなものが出ていて、どれを選んだらよいのか、迷ってしまいますね。

独和辞典を分類すると、ほぼ次の4種類になります。

(1)入門者用辞典

(2)学習辞典

(3)中辞典

(4)大辞典

(1)には、白水社の『パスポート独和・和独小辞典』、郁文堂の『エクセル独和辞典』、三修社の『新アルファ独和辞典』（在庫僅少のようです）などがあります。これらはおもにドイツ語教科書の出版社が出しており、まったくはじめてドイツ語を学ぶ人に対して、いろいろ配慮されています。ただ、ページ数も少なく、値段も安いのですが、見出し語数が少なく、せいぜい「初級」のときにしか役に立ちません。「中級」に進んだらもっと大きな辞典を買おうと考えている人にはお薦めです。また、わからない単語を調べるのではなく、暇なときに読んでみる、という使い方もできます。

(2)の代表格は、同学社の『アポロン独和辞典』です。(1)の辞典の見出し語数を増やしたものの、と考えるとよいでしょう。ですから、「中級」程度までは使えるように配慮されています。三省堂の『クラウン独和辞典』も、索引式の文法説明など初心者向けの配慮をしつつ、中級以上の学習者をターゲットにしています。他に、三修社の『アクセス独和辞典』、小学館の『プログレッシブ独和辞典』、大修館書店の『新マイスター独和辞典』などがあります。

(3)は、学習辞典とほぼ同じ大きさの辞典ですが、付録や文法説明などを簡略化して、その分見出し語数を増やしているのが特徴です。その代表格は郁文堂の『郁文堂独和辞典』です。学習辞典のような付録や図版が少なく、和独インデックスも付いていないので、同じ郁文堂の『郁文堂和独辞典』と併用するとよいでしょう。飾りっ気がない分、誠実な独和辞典で、内容的には大辞典に匹敵します。三修社の『新現代独和辞典』は、現代のドイツ語に配慮した独和辞典です。

(4)は、小学館の『独和大辞典』です。とにかく見出し語数が多く、図版も充実しているし、語義や用例もふんだんに記載されています。ある語の意味の広がりを理解したいときには、きっと役に立つでしょう。ただ、初心者にはちょっと贅沢すぎて使いにくいこともある

でしょう。また、中辞典を少し分厚くしたような縮刷版が出ているので、最後はこの1冊がほしいところです。

辞典は「これ1冊」というわけにはいかず、ドイツ語の勉強を本気でしようと思う人は、勉強のすすみ具合に応じて独和辞典を次々と買い換え、さらにドイツで出版されているドイツ語辞典も持っておく必要があります。また、電子辞書にドイツ語が入ったものもあるそうですが、携帯しやすく一瞬にして調べたい単語が出てくる便利さがありますが、一画面に出てくる情報量が少なく、「辞書を読む」という大事な勉強法ができないという欠点もありますので、まず従来型の辞典を買って、余裕があれば電子辞書、というふうに考えてください。

あとはまた、実際の授業でいろいろなお話をしたいと思います。90分の授業は決して楽ではありませんが、外国語の学習に近道はありません。毎回の授業を大切にして、わからないことがあればどんどん質問をしてください。また、復習することで知識を確実に定着させることが大事です。

なお成城大学にはミュンヘン大学とエアランゲン大学との間の交換留学生制度があり、毎年3月にはドレスデン工科大学での海外短期語学研修(独語)も実施していますので、関心のある人はぜひチャレンジしてみてください。(詳しくは学内の各種掲示やパンフレット、ホームページ等で確認するか、国際センター(2号館2階)に問い合わせてください。

フランス語学習へのアドバイス

次の6点がフランス語学習へのアドバイスです。

1. 授業は休むな。そしてどんどん質問しよう。
2. まず良い辞書を買おう。自分にあった文法書(参考書)を持っておこう。
3. 音声教材を活用しよう。
4. 検定試験に挑戦しよう。
5. 現地研修・留学にチャレンジしよう。
6. 学外の教育機関を試みよう。

以下、くわしく述べましょう。

◆フランス語の習得がいかに大事か、については既に述べた(p.9-11)ので繰り返しません。また、先々の科目履修に影響してくるので、特に初級の単位を落とさないことという注意も既に繰り返しました(p.9)。ここでは、もっと基本的な注意をしましょう。それは、**授業を休まないこと**、ということです。当たり前のことですが、語学においてはこれが一番大事なのです。みなさんがこんなに見事に日本語をペラペラしゃべれるのは、毎日聞き、そして使っているからです。実際に喋っているときだけでなく、心の中でも声に出さずことばを喋っているのですから、睡眠中以外は24時間日本語を使っているのです。まして、日本語とは発音も文法もかけ離れた外国語を覚えるのですから、一分でも一秒でも長く触れていなければ、滅多なことでは頭に定着しません。言語とは反復以外のなにものでもありません。そして授

業とは、その言語に最も濃縮した形で触れられる時間のことです。その意味でも、授業は一回たりとも休まない、これを原則にして臨んでください。触れている時間が長ければ長いほど、どんな難しい言語も、いつのまにか覚えています。頭で覚えようとしなくとも体がいつのまにか覚えてくれます。語学の授業は体操の時間だと思って、耳と口と眼を思い切り働かせてください。

もう一つ大事なことは、わからないことは、その場で**どんどん教員に質問**することです。辞書を引いてから、参考書にあたってから、それでもわからなければ質問しよう、などと遠慮することはありません。問題はそのとき解決しましょう。日本人がフランス語がわからないのは当たり前です。恥ずかしいことはありません。先生は質問に答えるためにそこにいると思ってください。授業料のもとを取りましょう！それに、質問によってますます習得する内容が発展しますよ。

◆一年生の新学期、まずしなければならないことは**辞書を買う**ことです。フランス語は自分の専攻分野の勉強にとって、なくてはならない武器です。その意味でも良い辞書を買うことです。ドイツ語へのアドバイスで指摘されているように、小辞典では専門の勉強には役に立ちません。携帯性だけを考えて小辞典やポケット辞典を選ばないこと。

1～2年次の学習では、次のような学習用仏和辞典が使いやすいでしょう。

『**ディオ仏和辞典**』白水社

『**プチ・ロワイヤル仏和辞典**』旺文社

『**プログレッシブ仏和辞典**』小学館

『**クラウン仏和辞典**』三省堂

どれもそれぞれ長所があり、良い辞書です。自分の好みに合ったものを選ぶとよいでしょう。学年が進み、語学力がアップして、相手とするフランス語のレベルも高くなった時には、次のような辞書も必要となるでしょう。

『**ロワイヤル仏和中辞典**』旺文社（分厚く、内容も充実しています。）

『**新スタンダード仏和辞典**』大修館書店（レベルの高い良い辞書ですが、初学者向けではありません。）

もう一つ注意。辞書は買えばそれで終わりではありません。

1. 辞書は授業に持ってくること。さらに、
2. ただ授業に持ってくるだけでなく、わからないことがあったらすぐに引くこと。しかし、これだけでもまだ不十分です。ただ引きさえすれば良いものではありません。
3. 項目を引いて、その語義を見るだけでなく、書かれてある例文もすべて眼を通すことです。わからない語を日本語に置き換えさえすれば外国語を理解したことになるわけではないのです。多くの場合、言葉の真の意味やニュアンスは例文を通してしか伝わってきません。辞書は読み物だと思ってください。

さて、初めて習う語学では特に、授業だけでは疑問を全て解消することはなかなか難しいでしょう。予習、復習に参考書となる文法書が必要です。一冊使い慣れた文法書を持ってい

ると、言語学習というマラソンをあなたとともに走ってくれるペースメーカーのように、長い道のりを乗り切るのを助けてくれるでしょう。信頼できるものを二、三挙げておきます。数江譲治『フランス語のABC』白水社（昔から使われている定番参考書です。）田島宏ほか『コレクション・フランス語(3)文法』白水社（解説を読み、小問をやりながら進んでいくと、自然と文法が頭に入るようになっていきます。イラストがユーモラスです。）森本英夫、三野博司『新・リュミエールフランス文法参考書』駿河台出版社（これを1冊しっかりやれば、文法学習は万全。）

※他にも適当なものがあると思います。仏語（初級）を担当する先生に意見を伺うのもよいでしょうし、書店で実際に手に取って見てみるのもよいでしょう。いろいろ検討して、自分に最もあったものを選んでください。

◆教科書にテープや CD が付属していると思いますが、そのような音声教材を目一杯活用することです。授業中にしか聞かないというのではだめです。繰り返し何回も聞きましょう。そして、ヒヤリングの訓練にも活用しましょう。聞いて書き取り、教科書を開けて答え合わせをしてみるのです。これを繰り返すと、発音もスペルもしっかり頭に入ってきますよ。聞く→書く→答え合わせ→・・・を繰り返すのです。

また、音声教材のまねをして読む練習をし、自分の朗読を録音して、教材と聞き比べて、発音チェックをするのも良いでしょう。

◆検定試験に挑戦して、自分の力を確かめよう。

※ 仏検（実用フランス語技能検定試験）に合格した場合その成績を授業の成績評価に反映する科目があります。その科目と級は次の通りです。

仏語（初級）：5 級以上の合格

仏語コミュニケーション I・II：4 級以上の合格

仏語コミュニケーション III・IV：3 級以上の合格

仏文法実習 a・b：4 級以上の合格

○実用フランス語技能検定試験（通称、仏検）

<http://apefdapf.org/>

検定試験には、ほかに次のものがあります。

○フランス国民教育省認定公式フランス語資格試験 DELF・DALF

<http://www.delfdalf.jp/>

※また、既に触れたように、成城大学では、このような検定試験の対策となるディプロム・コースも開設されています。

◆ **短期研修・長期留学**にチャレンジしよう

毎年2月中旬から3月初旬にかけて、海外短期語学研修（仏語）（約3週間）が実施されます。フランス語力を飛躍させ、現実の生きたフランスを経験する絶好のチャンスです。この機会を大いに利用しましょう。

また、長期留学には、成城大学が提携しているフランスのマルク・ブロック大学へ留学する「交換留学」や、自分で選んだ海外の大学に留学し、成城大学単位として換算してもらう「認定留学」の制度があります。

短期研修も、長期留学も詳しくは国際センター(2号館2階)にお問い合わせください。

◆また、学外の教育機関になりますが、次のような専門的にフランス語を教える学校があります。行ってみると、そこが小さなフランスであるような、大学の授業とは違う雰囲気があり、大いに刺激されることでしょう。

○アンスティチュ・フランセ東京：<http://www.institutfrancais.jp/tokyo/>

○アテネフランセ：<http://www.athenee.jp/>

※本冊子は、ヨーロッパ文化学科ホームページから PDF ファイル形式でダウンロード可能です。

<https://www.seijo.ac.jp/education/falit/europe-study/guide/index.html>